

## 「 過去の災害を大切に 」

三重県 四日市市立西笹川中学校 2年

僕は今夏、一年前に静岡県熱海市で起きた土砂災害のニュースを久しぶりに見ました。久しぶりに見たので、ほとんどのシーンが記憶になく、また衝撃を受けました。一年前は自分が住んでいる地域でも土砂災害が起きてしまうのかと、ひやひやしていましたが、なぜ忘れてしまったか考えることにしました。

まず、考えられるのは時間がたったからです。つまり僕はそこまで危険なことだと考えていなかったということです。最初に一年前の僕はひやひやしていたと言いましたが、それはただの驚きだということです。本当はひやひやなどしておらず、少し衝撃を受けていただけということになります。もう一つ考えられるのは安全ボケです。安全だと信じ込むことが一番危険なのです。自分の住んでいる地域は安全だと思い込んでしまうせいであれだけ被害が出ている土砂災害も忘れてしまうのです。安全ボケの怖いところは本当に危険が迫っているとき鈍感になってしまいがちなところ。心を和らげるには、この地域は安全だと思い込むほうがいいと思いますが、もし、土砂災害が起こった時に、行動できなくなってしまうので、どちらかといえば、常に緊張感を持った方がいいと思います。なぜかという、過去の土砂災害のデータを見てみると、豪雨、地震、台風、噴火など様々な原因があります。人間が地震などの揺れを感知することができれば危険だと分かり、避難することができますが、通常の雨なら、土砂災害を気に掛けることなどあまりないと思います。ですが、土砂災害が発生してしまったら、過去のデータを見る限り、死者は必ずと言っていいほどでていて、行方不明者もでています。地震や津波といった自然災害は予想するのがとても困難なので被害は少なからずでてしまいます。ですが、そんなことも言っている場合ではありません。では、どのように対策すればよいのでしょうか。一つ目は信じ込みすぎないことです。安全だと信じ込み過ぎてしまえば、行動が遅くなってしまったり、自分が信じていたことが裏切られたかのように心が痛んでしまいます。二つ目は避難訓練をすることです。ですが、学校では、土砂災害の避難訓練はあまりしないと思います。なので、土砂災害はあまり身近、危険に感じないかもしれません。そこで三つ目です。三つ目は過去の土砂災害から情報を得ることです。状況などが一致することはあまりないですが、少しでも頭に入れておくといいと思います。過去に土砂災害で、人が亡くなったり、行方不明になっている人がいるということを生きている僕たちが理解し、過去の災害を利用するのです。過去の被害をずっと引きずるのではなく、次、土砂災害が起きたときに少しでも被害を和らげるようにするのです。四つ目は、語り継ぐことです。土砂災害を体験していない僕たちには本当の土砂災害の怖さが絶対わかりません。土砂災害に限らず、どの場面でも語り継ぐことは必要です。特に、被災者が語るのには重みが全然違います。土砂災害を軽蔑している人も、体験者から話を聞けば、気持ちや考えが変わるかもしれません。ですが、体験者もいつか語れなくなってしまいます。なので、メモやビデオに残しておくことも大切です。

土砂災害の被害は人間だけで止めることは簡単ではありません。ですが、人間だけでも被害を和らげることはできます。そこで大切、必要になってくるのが、過去の体験、経験です。しかし、本当に身近で起きたことがある人のほうが少ないのです。だからこそ体験者が伝えることが大切なのです。被災者が伝えてくれる貴重な内容を我々は覚え、いつ起きてもいいように備えないといけません。生きているときに、このような悲惨な被害が起きるのは悲しいですが、その土砂災害のおかげで僕たちは知識を得られるのです。言い方は悪いかもしれませんが、僕たちは過去の土砂災害の被害から学び、それを踏み台にして、今後の被害を減らし、生きていかないとけないのです。